

三津田支坊 花まつり

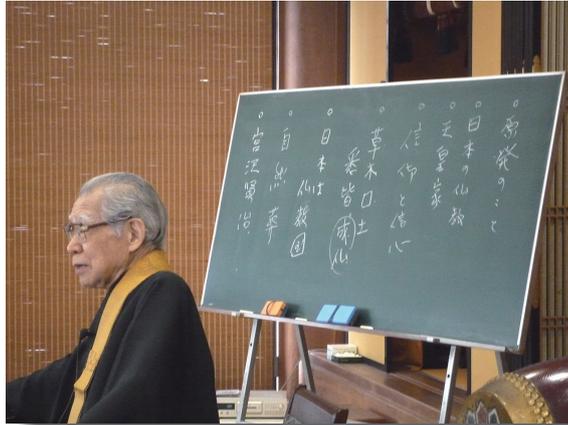
四月七日、三津田支坊で花まつりが行われました。こちらはご門徒が主催。今年で八回目になります。お菓子を五十個準備しましたが、あちこちから皆さん口コミで次々とお参り下さり、準備したお菓子が足らなくなりました。



春季永代経

今年四月の永代経法座は信楽峻磨先生（元龍谷大学学長）にお願いしました。

父の日、母の日、子どもの日はあるが先祖の日はない。「弔う」とは「亡くなった人を心にかける」意。昨今は葬式も墓もない時代。せめて身内だけでも末永く思うてやりなさいや。現代人は何が忙しいのか、↑(一心)を↓(二心)くしている、大事な心を失っている。人間は五万年前から死んだ身内に花を供えた。五万年経った今の若者は、親が死んでも葬式もしなけりや花一本も供えない。どうなっているのか。



信楽峻磨先生

新世話人

三津田支坊地区を長年お世話下さった松原さんが体調を崩され、かわりに沖本聖子さんがお世話下さることになりました。松原さん、長い間ありがとうございました。沖本さん、どうぞよろしくお願いします。

まあ、いずれにしても死んでいかなければならないけれど、死んだらどうなるの？生まれる前はど

うだったの？犬や猫じゃないんだからここをどう考えるのか。そこを抜きにするから人生が宙に浮く(略)。

ご満座は御示談(仏法・人生の質疑応答)。参詣者からは、原発・天皇后継者自然葬など、色々質問が出ました。

宗祖親鸞聖人

降誕会とは、親鸞聖人の誕生日(五月二十一日)のこと。三ヶ所の西教寺では、いろいろ趣向を凝らしてお祝いしました。



三津田支坊お斎

降誕会つとまる



仕舞「羽衣」の様子。謡曲「實盛」では、別時念仏をお聞かせいただきました。



恒例のお抹茶のお接待も。草庵での様子。